

リフレッシュ・沖縄

職員球技大会の懇親会席上、渡辺福之氏から「頼みごとがあるのですが」と話しかけられ、聞いてみると『技能と技術』の投稿の件でした。宴たけなわで、アルコールも入って気持ちがよくなった頃で、軽率に“OK”を言ってしまいました。

彼とは十数年間同じ職場で共にしてきて、私の気性を見抜いた、たくらみであったかに思っています。

以上のようなことから、バトンを渡された以上引き受けざるを得なくなり、原稿の締め切り期日が迫るにしたがって、気軽に引き受けたことに後悔しながら、ペンを取ります。

私にとって沖縄は、裁判闘争および反戦平和学習

会以来二度目となりました。今回は全九州職員球技大会と沖縄観光も兼ねていて、2泊3日の余裕あるスケジュールです。滞在中は大変印象深かったこと、感激したこと数多くありました。特に反戦平和学習会と違って、地域のお祭りの観覧、また沖縄県の人たちと接したこと、沖縄の一部を見たように思います。

まず那覇空港に降り立った瞬間、九州にいながらにして11月とは思えないような暖かい日差し、熱気を感じ、やはり南国の地に來たことを再認識させられました。

第1日目午後半日は観光で、琉球の館 民芸品・絨織の実演、ひめゆりパーク 数千種・数十万株の

秀句つれづれぐさ

本宮 鼎三

天つ日につばなながしの行方かな 藤田あけ鳥

句集『赤松』所収、平九刊。「天つ」は「空」「天つ風」

「天つおとめ」などもある。「天つ日」は「太陽」だが、この句の場合、「日光」を感じる。「つばなながし」は「茅花流し」で、五月、茅花の白い穂絮を吹く南風のことをいう。五月の海浜などの眩しい光線、そして自分の運命、生命などを思う気持ち、この句の中にこめられているといえよう。故石田波郷に学び、現在「草の花」主宰。

水中を蛙追ひゆく山かがし

北村 保

句集『伊賀の奥』所収、平五作。ただ「蛙」というと、春の季語。しかしこの句は、「山かがし」が優先で夏の季節に分類される作品。「山かがし」は漢字で「赤棟蛇」と書く「蛇」。山本健吉編『歳時記』には「暗青灰色、暗橄欖色で、胴には黒い斑点が四列に並び…」とある。私も昔は見た覚えがある。だがこのころは見たことがない。この句は「蛇に見込まれ蛙」。生物のかなしさを表す。この作家は二十歳の時、交通事故により全身麻痺の障害。それにめげず角川俳句賞（平二）、俳人協会新人賞（平十）など受賞。澤木欣一門。「風」同人。

熱帯サボテン等数々、玉泉洞 規模は小さいが神秘的であり、地上では沖縄工芸村、琉球ガラス工房、ハブ公園のマンガースとハブ・コブラの決闘ショーを見学しました。移動中の車内は、本土でこの季節では考えられない年間通しての冷房の効いた車内であり、車中からの家並みも、台風一過の通過点に位置する関係か、コンクリート製の白壁の家々が建ち並び、玄関上には、沖縄特有の悪魔除けのいろいろな表情をしたシーサーが睨みつけています。

また家並みが過ぎれば、のどかな砂糖黍畑、電照菊畑が広々と続く風景が目につきました。しかしながら、沖縄で忘れてはならない米軍基地があります。沖縄本土の大半を占める広大な土地に軍事施設と軍人居住施設等を見ると、以前の反戦平和学習会のときを思い出しました。初日の宿泊は、残波岬および太平洋が一望できるホテルでした。

翌朝ホテルのテラスから澄みきった青空と、マリーンブルーの海、白い海岸線、水平線がくっきりと...、大変素晴らしい天候、沖縄に来た実感が湧いてきました。いよいよ親善球技大会の開会、ソフトボール、ビーチバレーボール、グランドゴルフ等々の競技がホテル周辺で開催されました。私はグランドゴルフに出場し、汗ばむ陽気でしたが思うようなスコアになりませんでした。試合後近くの読谷村グラン

ドで、お祭りが開催されていて、村民総参加の踊り、中学生の勇壮なマーチング等の演技を観覧することができました。また移動途中での座喜味城跡にある民芸館に立ち寄り、沖縄風の豆腐料理もご賞味させていただき、沖縄の人たちの生活の様子を知り得たように思います。その夜には、参加者一堂に会しての素晴らしい懇親会があり、沖縄職員による琉球民族舞踊、空手演武等アトラクションの数々に感銘を受けました。久しぶりの顔、なつかしく会話が弾む、また新たな出会いもあったように思います。

最後の日も素晴らしい天候に恵まれ、午前中は観光、琉球村 昔ながらの草葺き屋根の民家や生活様式、万座毛 太平洋の荒波を受け浸食された断崖絶壁の海岸、七色に見える海の色、東南植物園 数万本の熱帯植物樹林の中を探索、一瞬南方の地にタイムスリップしたような気持ちになりました。

皆さんも常夏の島、沖縄に行かれてはどうでしょう。空の青さ、海の青さ、気持ちも晴れ晴れ、心身ともリフレッシュできること間違いありません。

そろそろ誌面もわずかになりました。今回は阪神・淡路大震災において、加古川の特別コース担当で一緒したポリテクセンター石川の米山毅さん（現雇用促進事業団職業能力開発指導部）にバトンタッチします。

リレートーク【2】

雇用促進事業団厚生会 大澤 慶子

楽しいホノルルマラソン

ポリテクセンター中部の森玲子さんからリレートークを引き継ぎました、厚生会の大澤慶子です。森さんは素直でかわいらしく、そして頑張りやさんなので、私がお手本にしたいと思う同期の一人です。今回も森さんのアドバイスをもとに、最近一番心に残っていることを書いてみたいと思います。

昨年、私はハワイのホノルルマラソンに参加しました。マラソンというのは、「谷口頑張り！」など

と言いながら（あの谷口選手も今回ホノルルマラソンに出場していました）、テレビで見るものだとばかり思っていました。それが、新人研修の際、ホノルルマラソン完走の話をつづらさん（彼女はとても細くて小柄なのですが、森さん同様頑張りやさんです）に聞いてから、いつか私も走ってみたいと思うようになったのです。

まず、一緒に行く人を探しました。普通の旅行と

違い、マラソンというだけで断られてしまいます。結局、一緒に出場した2人のうち1人は、空港の出発ロビーで初めて顔を合わせたほどです。

ホノルルマラソンは、エントリーすれば誰でも参加でき、制限時間がないため、参加した人すべてに完走のチャンスがあります。ランナーは年配の方から子どもまで約3万人。日本人が最も多いのですが、国籍もさまざまです。まだ暗い早朝のスタートにもかかわらず、街中はクリスマスのイルミネーションで彩られ、空には花火、そして参加者の中にはウエディングドレス&タキシード姿のカップルもいたりして、ほとんどお祭り気分です。走り始めても興奮冷めやらぬという感じで、すごい歓声があがっています。

このホノルルマラソンに向け、2ヵ月ほど前から、一応練習らしきものを始めました。自宅近くの陸上競技場では、おばさまたちが2~3人のグループを作って、歩きながらの井戸端会議をしています。その中に交じって走りました。いつも10kmを1時間かけて走るのが精いっぱいでしたが、本番では、10km地点は意外に簡単に通り過ぎてしまいました。その場の雰囲気というのはすごいものですね。ハーフ地点ではさすがにつらくなってきます。でも、まだまだたくさんの方が一緒に走っていますし、何よりも、給水所等でサポートしてくださるボランティアの方々、沿道の温かい応援が心の支えになります。サンタクロース姿のおじいさんも応援してくれます。40km地点では、もう走っているのか歩いているのかわからない状態でした。そのとき、「ここで頑張れば5時間をきってゴールできる。もう少しだ！」と力強く声をかけてくださる方がいて、私はその言葉に後押しされ、無我夢中でラストスパートをかけました。

スタート前は完走できるかとても不安でしたが、本当に多くの人に助けられて、ゴールすることができました。こんな苦しい思いをすることはめったにないでしょうから、ホノルルマラソン完走は大きな自信にもつながると思います。一緒に出場した友人も見事に完走です。完走記念に、当日限定のホノルルマラソンバージョンのプリクラを3人でとって、



おみやげにしました。みなさんも一度、参加してみたいはいかがですか。ゾンビ歩きも経験できますよ。

次回登場する同期の村松一貴君は、多趣味なうえ、日本はもちろん世界中を忙しく飛び回っていると行動的な人です。きっと楽しい話題を提供してくれることでしょう。村松君、よろしくお願ひします。